

ス  
ラ  
イ  
ド  
1



～進行要領例～ 約10分

これから、「防災訓練について」の講義を始めます。内容については、スライドの画面にあるとおりに進めていきます。みんなで防災訓練を見直す視点について確認していきましょう。

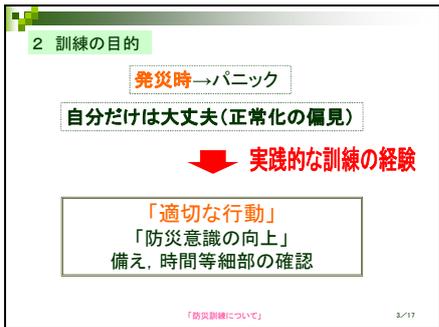
ス  
ラ  
イ  
ド  
2



私たちが住む宮城県は、地震や津波だけでなく土砂災害、火山活動、風水害、大雪、原子力災害等の様々な自然災害が起こり得る可能性があります。

また災害はいつ起こるか分かりません。災害がいつ起きても適切に対処できるように、より実践的な視点で防災訓練を見直していきましょう。

ス  
ラ  
イ  
ド  
3

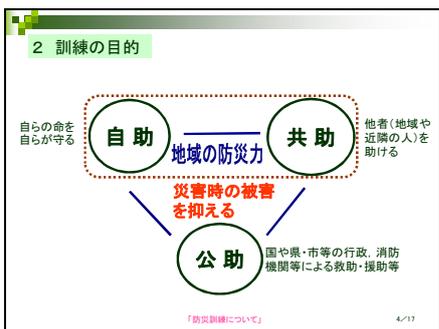


災害発生直後には誰でもパニックに陥る可能性があります。

また、反対に東日本大震災では「自分だけは大丈夫」という正常化の偏見が、避難や初動対応が遅れる原因になることも明らかになりました。

実践的な訓練の経験は適切な行動へとつながります。訓練を行うことで防災意識も向上し、またどのような備えが必要か、どれくらいの時間が掛かるのか等の課題も明らかにすることができます。

ス  
ラ  
イ  
ド  
4



「自助」「共助」「公助」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。

防災における「自助」とは自らの命は自らが守ること「共助」は「他者を助けること」そして「公助」は国や県などの公的機関による援助等のことです。

東日本大震災のように大規模な災害が起きたときは、「公助」がすぐに機能しない場合もあります。

災害が発生した場合は、第一に自己責任による自助の考え方、そして第二に近くにいる人同士の助け合いによる共助の考え方が大切です。

そのため、訓練もこの自助、共助の観点で見直す必要があります。

ス  
ラ  
イ  
ド  
5

3 訓練の種類

1 避難訓練...これまで主に行われてきた訓練  
・初期対応  
・二次対応 等

緊急地震速報に対応する訓練 地震動を感知し、身の安全を守る訓練  
地震動終息後、より安全な場所に移動する訓練  
火災に対する避難訓練 津波に対する避難訓練  
保護者への引き渡し訓練

「防災訓練について」 5/17

一口に防災訓練と言っても様々な種類があります。  
これまで学校で主に行われてきた避難訓練が代表的なものの一つです。

この避難訓練にも様々なものがあり、初期対応(揺れたら)に備える訓練と二次対応(揺れが収まったら)に備える訓練があります。

ス  
ラ  
イ  
ド  
6

3 訓練の種類

<その他の訓練>

1 初期消火訓練...最も被害を拡大させる火災に対して  
・消火器取り扱い訓練 ・バケツリレー 等

2 救護・搬送訓練...発段階に応じて  
・応急手当 ・心肺蘇生法 ・担架による搬送 等

3 情報収集・伝達訓練...学校、保護者、地域、関係機関と連携しながら

「防災訓練について」 6/17

避難訓練の他にも火災を想定した初期消火訓練、応急手当や心肺蘇生等を行う救護・搬送訓練、そしていざという時の情報のやりとりに備える情報収集・伝達訓練があります。

ス  
ラ  
イ  
ド  
7

3 訓練の種類

<その他の訓練>

4 炊き出し(給食・給水)訓練  
・非常用食料の調理法 ・飯ごうを使って 等

5 図上訓練...地図等への書き込みを通して対応策を考える

6 避難所運営訓練...基本は市や地域が運営、市や地域の体制が整うまでを想定しておく

「防災訓練について」 7/17

さらに炊き出し訓練や図上訓練、避難所運営訓練等があります。発段階や学校・地域の状況を考え、避難するだけではなくあらゆる想定、あらゆる場面を考えて訓練することが大切です。

ス  
ラ  
イ  
ド  
8

4 訓練の例

1 登下校時を想定した避難訓練

1 実施日時を決める(計画立案)

2 家庭、地域、関係機関に連絡(協力依頼)

3 教職員の役割分担

4 実施 防災スピーカーまたは広報車で放送(合図)

↓  
初期対応(素早く安全確保)

↓  
二次対応(安全な場所へ避難)

5 点検・評価(改善→次回訓練)

教職員(地域の人、保護者)地域に分かれて見守る

「防災訓練について」 8/17

ここからは、実践例を紹介します。一つ目は登下校時を想定した避難訓練です。

自宅にいるときや学校にいるときに地震が発生した場合、周りの大人の指示に従って避難することができますが、登下校時など大人が近くにいない時間帯に、児童生徒が自分たちで初期対応し、さらに近くの安全な避難場所に避難する二次行動をとることが必要になります。

登下校時を想定した避難訓練では、通学路周辺の安全な避難場所を確認することを促します。これをもとに、個人マニュアル等を作成し、教師が実態を把握しておくことも大切です。

ス  
ラ  
イ  
ド  
9

4 訓練の例

2 小中学校合同の避難訓練

1 合同で実施日時を決める(計画立案)

2 それぞれの学校でねらいや役割分担を確認

3 実施 同時に合図

↓

初期対応(素早く安全確保)

↓

二次対応(安全な場所へ避難)

+ 引き渡し訓練

4 点検・評価(改善→次回訓練)

「防災訓練について」 6/17

避難経路・避難場所の広さの確認。中学生は低学年の手をつなぐ等、他者の助けとなる行動も考えられる。

二つ目の例は小中学校合同の避難訓練です。  
小学校と中学校が隣接している地域の場合小中学校が合同で実施する訓練が有効です。

中学生にとっては、自分が避難するだけでなく、児童の避難を支援する共助の考えを養うことにもなると思われます。

小学生にとっても「大きくなったら助ける側になる」という認識をもたせることにもつながります。

津波が想定される場合は、中学生と小学生が同じ避難経路を通して、同じ避難場所に行くことになるので、避難経路の道幅や安全性を事前に確認する意味合いでも大切です。

この訓練に引き渡し訓練を併せて行うことで、両校に子供がいる家庭にとっては災害時に引き渡す時間の短縮にもつながると思われます。

ス  
ラ  
イ  
ド  
10

5 ショート訓練のすすめ

ショート訓練＝地震の揺れから命を守る。初期対応の訓練

<ショート訓練のメリット>

- ・短時間で訓練実施が可能
- ・児童生徒が自分で判断し行動する訓練
- ・学級毎、委員会毎、部活毎で実施可能

「防災訓練について」 10/17

ここからは新しい訓練の提案です。宮城県の場合、津波の多くは到達までにある程度の時間が掛かります。

「揺れたら逃げる」この心構えがあれば、津波から命を守ることが可能と言えます。

しかし、地震に対しては、揺れたその時に、瞬時に判断し行動できるための訓練をしておく必要があります。

そこで提案するのが短時間でできるショート訓練です。

大がかりな避難訓練は年に何回もすることが難しくても、ショート訓練ならば学級単位、部活動単位に短時間で行うことが可能です。

「給食時間に」、「音楽室で」、「体育館で」など場所や時間を変えて行ってみてください。

繰り返し行い、瞬時に判断し行動する感覚を身に付けることが重要です。

ス  
ラ  
イ  
ド  
11

5 ショート訓練のすすめ

<ショート訓練のポイント1>避難行動を身に付ける

1 落ちてこない・倒れてこない・移動してこない  
場所へすばやく身を寄せる

2 姿勢を低くして、体や頭を守り、揺れが収まるまでじっとする

「防災訓練について」 11/17

ショート訓練は、様々な場所、時間帯において地震による揺れを想定して行います。

ショート訓練のポイントの1つ目として挙げたいのが、避難行動についてです。訓練では、合図をもとに児童生徒一人一人がすばやく避難行動を取れるようになることが大切です。

身に付けたい避難行動は、まず、落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を見つけ、そこに素早く身を寄せることです。

次に、姿勢を低くし、体や頭を守り、揺れが収まるまでじっとすることです。この2つの避難行動をいつでもどこでも取れるように繰り返し訓練します。

防災訓練について

ス  
ラ  
イ  
ド  
12

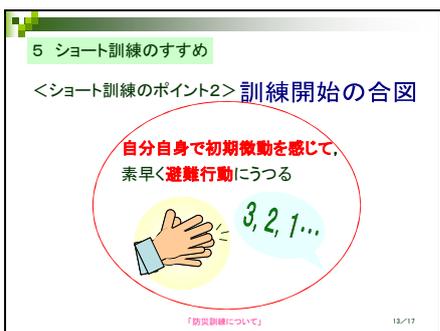


ポイントの2つめは訓練開始の合図についてです。  
全国的には、実際に近い形で避難行動にうつることができるということで緊急地震速報を活用する学校が増えているようです。

また、どの学校にもある非常ベルを活用して訓練する場合もあると思います。

これらの合図を使う際は、児童生徒の心理状況に配慮する必要があります。震災で怖い思いをした児童生徒にとっては大変な恐怖を感じることもあります。緊急地震速報の音は人々がすぐに何とかしなくてはと思うよう、人間が嫌だと感じる周波数で作られているそうです。そのためみんなが嫌なイメージをもつのは当たり前のことであるということを事前に伝えるだけでも、心の重さが少し軽くなるかもしれません。

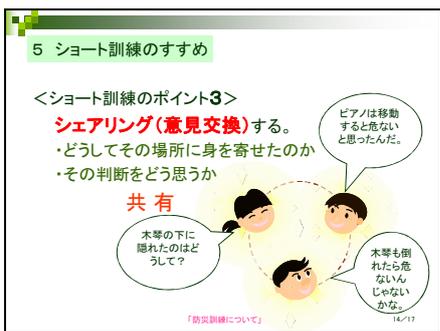
ス  
ラ  
イ  
ド  
13



実際の場面で大切なのは、自分自身で初期微動を感じた時に、どう素早く行動できるかです。先に挙げた合図を使用しなくても、教師の手拍子やカウントダウン等で初期微動を感じたという設定にし、訓練することも可能です。

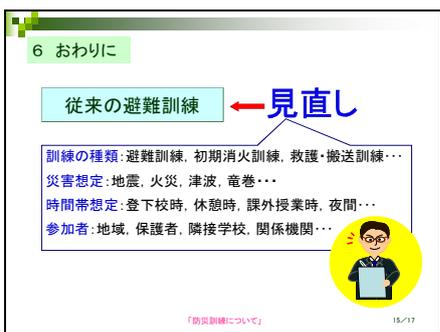
この訓練を繰り返すことで、万が一緊急地震速報等の情報が入らなくても、揺れを感じたら行動する児童生徒等を育てることができると思います。

ス  
ラ  
イ  
ド  
14



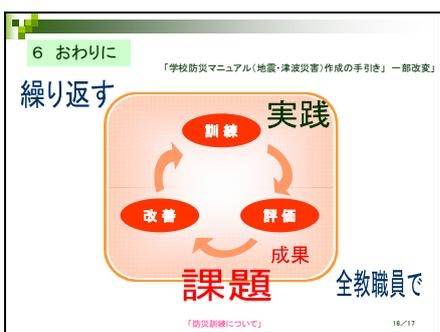
三つ目のポイントが、シェアリングを行うということです。「素早く判断できたか」を振り返ると共に、「どうしてその場所に身を寄せたのか」「その判断はどうだったのか」を児童生徒自身に考えさせ話し合わせることで共有化を図ることができます。このような訓練を繰り返すことで児童生徒の主体的な態度を養うことにもつながると考えられます。

ス  
ラ  
イ  
ド  
15



これまでの話を振り返って防災訓練の見直しができそうでしょうか。今日紹介したのは一例ですが、それぞれの学校で話し合っ、今後様々な状況の設定に応じた防災訓練の実施を検討していきましょう。

ス  
ラ  
イ  
ド  
16



また実践の結果を、学校だけでなく地域の人や専門家など多くの人の目で振り返って評価し、そこから課題を見つけ改善し、次の実践に生かしましょう。訓練は課題を明らかにするために行うものとも言えます。繰り返し行うことによりその課題解決につながります。実践的な防災訓練を行い、全教職員で災害時に適切な行動が取れる児童生徒の育成を目指しましょう。

ス  
ラ  
イ  
ド  
17

